

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 大学院大学広報費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 事務局教務課 電話番号：0584-75-6600(内 8223)

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,924 千円 (前年度予算額：4,680 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,680	0	0	4,680	0	0	0	0	0
要求額	4,924	0	0	4,847	0	0	0	0	77
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

少子化、専攻分野が競合する大学等が各地に増加してきたことに伴い、本学への出願者の確保対策が必要となっており、IAMASの活動を県内外にアピールする必要がある。また、令和3年度に博士課程を新規に設置することに伴い、その広報を行う必要がある。

(2) 事業内容

国内外を対象とした多彩な広報を実施するとともに、県内に向けて本学の特徴を積極的にPRし、地元地域における知名度の向上と、県内産業・地域文化の振興に寄与する。

全国で同種の学部・大学院が増加もしていることから、これまで以上に積極的かつ効果的な広報並びに学生募集活動を行い、独創的で優秀な学生を数多く確保し、多彩な人材の育成を行う。

また、新規に設置される博士課程の広報を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

使用料・手数料（入学金・授業料）を充当

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	2,790	学校パンフレット制作謝礼等
需用費	1,330	パンフレット等印刷製本費、消耗品費
役務費	354	入学案内郵送料 等
委託料	450	広報物デザイン委託
合計	4,924	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

I A M A S の活動の多様化と、将来的な定員増に向けて、各分野からの多才で優秀な学生を確保することが重要であるため、県内にとどまることなく全国レベルにおいて、積極的かつ効果的な広報活動並びに学生募集活動を行う必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
本学の特徴について広く理解促進を図るため、国内外を対象として積極的な広報を実施するとともに、優秀な学生を確保するための募集活動を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
受験者数（人）	44 (H22)	40 (H30)	36 (R1)	38 (R2)	45 (R3)	84%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
学校紹介行事「オープンハウス」やオンラインでの進学相談会、各種イベントの機会を通じたPRや、関係大学等へのPR資料送付、パンフレット内容の見直し、Webを通じた学校PRなどを実施し、知名度の向上とともに受験生の確保を図った。

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
積極的な広報活動の結果、前年度同等の受験者数を確保した。少子化の進展や同種学部の増加といった状況を踏まえ、ひきつづき優秀な学生の確保に向けて、積極的に広報活動を実施していく。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の教育研究を高い水準で維持するためにも、優秀な学生の確保が必要。特に、定員30人に向けた対策が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・学部を持たない大学院にもかかわらず、一定の受験生を確保しており、受験生獲得に向けた学生広報の効果が上がっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・地道な学生募集活動に加え、Webを効果的に活用するなど、様々な媒体を活用した効果的・効率的な広報に努めている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 少子化や専攻分野が競合する大学が増加していることから、本学の魅力や特徴について理解を広げる必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか メディア表現分野では国内外で一定の評価を受けているが、県内での知名度は十分でないことから、地域社会や産業への貢献について県内に向けた広報に取り組みつつ、潜在的な需要を掘り起こすような多様な広報活動を推進していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	